

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

## 太陽光発電や防災機能

### 本社ビルが地域に貢献

最新の高層ビルの多くは、地球環境への配慮や地域防災への協力といった企業の社会的責任(CSR)を果たすための機能を備えています。

東京都中央区にある清水建設の本社ビルを訪問しました。2012年に完成した22階建てのビルで約3千人のスタッフが働いています。

ビルに足を踏み入れるとオフィス空間の快適さだけではなく、省エネや災害への対応が強く意識されているのを感じました。

本社ビルの窓には光を通す太陽光パネルが計約960枚、約2千平方メートル分が設置されました。発電量は年間約8万4千キロワット時で、オフィスで昼間に使用する発光ダイオード(LED)照明の消費電力にほぼ匹敵するそうです。蓄電池と組み合わせることで、停電時には非常用電源としても活用できます。エネルギーを生む「創エネ機能」を備えていることは通常のビルを一歩リードしていると言えるでしょう。

建築物は長く使うので、環境への負荷をできるだけ抑えることが大切です。清水建設の場合、オフィスで使うパソコンの省電力タイプへの転換も進めて、15年にはビルから1年間に排出される二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の量を、東京都内オフィスビルの05年平均より70%削減しようとしています。

さらに同社の本社ビルは食料や毛布などが備蓄されていて、災害発生時には地元の自治体と連携して帰宅困難者を支える拠点にもなります。

清水建設は、環境対策を経営の重要課題と位置付け、先端技術を駆使して本社を建築しました。企業の社会的責任を果たそうという姿勢を具体化した好例だと考えます。(株式会社グッドバンカー)